

非住宅木造に向けた製品やサービスが勢揃い 非住宅木造建築フェア



6月4日から3日間にわたり東京ビッグサイトで開催された非住宅木造建築フェア2025

木材・プレカット・構造計算・建築工法等、非住宅木造建築物の「木造・木質化」に関する製品・サービス・ソリューションを一堂に集めた「非住宅木造建築フェア2025」が6月4日から6日までの3日間にわたり、東京ビッグサイトにおいて開催された。

今回は出展数が昨年よりも大幅に増加したため、会場を東京ビッグサイトの西ホールから東ホールに変更し、開催規模を拡大。木造の中高層建築を可能にするCLTをはじめとした最新の構造材や建材、木造建築の課題であった耐火性能を克服する新しい部材や工法、CADソフトなどの設計ツール、設計支援サービスなどが多数出展されたほか、会場内にCLT等を用いた住宅一棟を建てるライブ施工イベントや各種セミナーなども実施された。

ゼネコン各社の非住宅木造への取組み

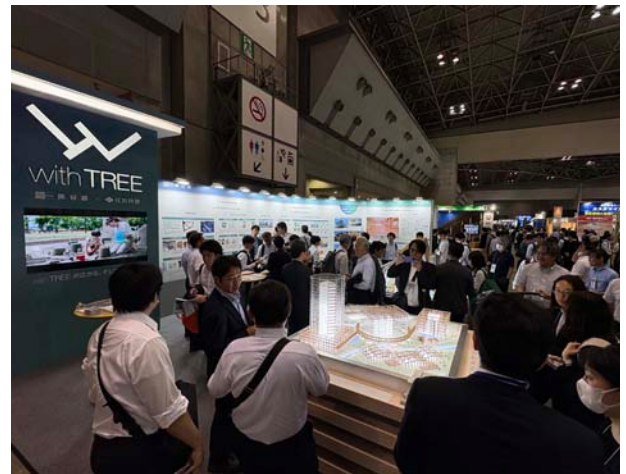
非住宅木造建築フェア2025では、中高層木造建築や大規模プロジェクトにおける独自技術の開発とその成果を発表する大手ゼネコン各社を中心に、非住宅木造建築に本格参入する大手企業の出展が多く見られた。

三菱地所グループの共同ブースではグループ各社の取組みを紹介。商品開発から丸太の調達、製材、加工、製造、販売までを行うMEC Industry(株)の取組みや三菱ウッドビルド(株)による都市を木質化する設計・施工の事例、三菱地所ホーム(株)による木構造・工法の事例などを紹介した。

住友林業(株)と(株)熊谷組の共同ブースでは、両社で立ちあげた中大規模木造建築ブランド



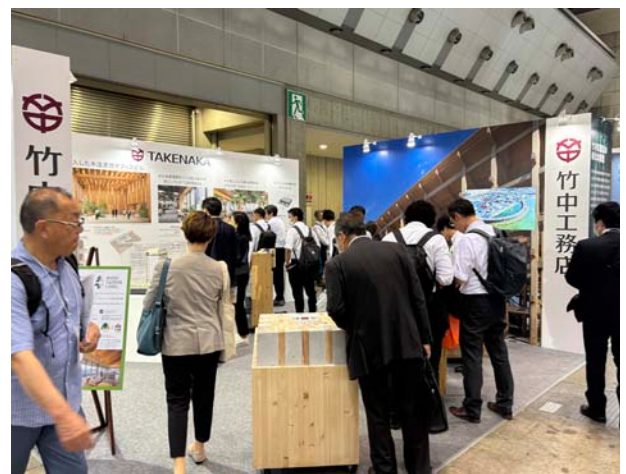
三菱地所グループの展示ブース



住友林業と熊谷組の共同ブース



三井ホームと三井不動産グループは「MOCX」をPR



竹中工務店は新架構システム「KiPLUS?」を展示

「withTREE」を紹介。熊谷組の中大規模建築技術と住友林業の木の知見を活かし、両社協業で培った技術と事例を紹介するとともに社が目指す新たな木質・木造化についての提案を行った。

三井ホーム(株)と三井不動産グループの共同ブースでは、木造化技術ブランド「MOCX」による木造建築とデザイン力のPRを行った。また、メタルプレートコネクター「コネクトラス」や高層木造建築に向けた木造ハイブリッド免震構造の紹介を行ったほか、2×4製材を釘打ちして作られたNLT (Nail Laminated Timber) パネルによる木造コンテナ「NLTコンテナ」などを紹介した。

(株)竹中工務店は、RC造・S造の架構の一部に木をあらわしで使用しながら、遮音・耐震性

能などの一部を補完する、同社オリジナルの設計技術体系「KiPLUS?」シリーズの部材模型を展示したほか、耐火性能を有する構造体(柱、梁、耐力壁)「燃エンウッド®(二時間耐火仕様)」のサンプルを展示。また、同社を含む共同企業体が手がけた2025年日本国際博覧会(大阪万博)のシンボルである大屋根リングの構造模型や接合部のモックアップも展示されていた。

東急建設(株)では、同社の中大規模木造建築ブランド「MOC+ (モクタス)」の技術と実績を紹介。3種類(準耐火・HC耐火・耐火)のモクタスWOODをパネル展示したほか、木造集合住宅の提案や、古くなったビルを木の特徴を活かした木造オフィスビルへと改修(レトロフィット)するプランを紹介した。

大成建設(株)は同社オリジナルの新接合方法を



大阪万博の大屋根リング（接合部のモックアップ）



東急建設は「MOC+」の技術と実績を紹介

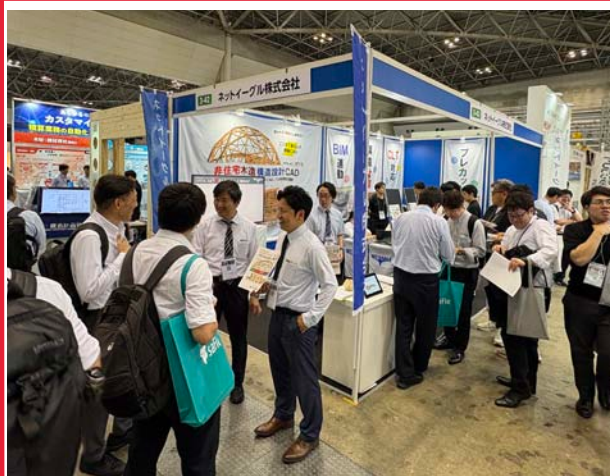


大成建設の「T-WOOD® SPACE Light」

活用した木質フレーム「T-WOOD® SPACE Light」によって展示ブースを構成。ブースでは木造・木質建築のための技術「T-WOOD®」シリーズから、一般流通材を使ったユニット式木質空間フレームや遮音と耐火を両立させた壁、大スパン床ユニット、集成材とプレキャストコンクリート梁を一体化させたハイブリッド梁、CLTを使用した最大12mスパンの木質大空間などをパネル展示した。

機能の多様化が進むCADシステム

木造プレカットCADの大手であるネットイーグル(株)のブースでは、非住宅木造プレカットCAD「XF15」の紹介を中心に、自社開発の構造計算エンジンを搭載した「NSCシリー



多くの来場者を集めたネットイーグルの展示ブース

ズ」やBIM連動（IFCデータ読込／出力システム）など、高層木造や大規模木造の非住宅物件に向けたCADの先進機能について、大型モニターでデモ動画を展示した。また今回バージョンアップされた2×4プレカットCAD「XF24」の10階建て対応や、外国製の特殊加工機とCAD/CAM加工連動が可能となった「CLT-CAD」についてもデモ動画を展示した。

今回、同社のブースでは206社（新規顧客79社／既存顧客127社）の来場者を集めたが、ゼネコン関係よりも設計事務所や工務店、プレカット工場が多くを占めた。また今回は、職人不足を見据えたパネル工法による非住宅対応、鉄骨造から木造への置き換えについての引き合い数が増えた。

建築業界向けの3D建築CADシステム



福井コンピュータアーキテクト(株)の出展ブース



タツミは「TN-WOLSH」シリーズでブースを構成



タナカは「新・つくば耐力壁」を実大展示



MP木造建築によるBXカネシンの展示ブース

の開発・販売を行う福井コンピュータアーキテクト(株)では、建築3次元CADソフト「ARCHITREND ZERO」と設計コネクタサービス「ARCHITREND ONE」の連携モデルをデモ展示した。これはCADデータをクラウド連携させ、リアルタイムでデータ管理を行うというもの。アカウント単位で閲覧制限・編集権限が設定可能で、場所・時間を問わず整合性のある設計情報の共有や進捗確認、遠隔での作業指示などを可能にするもの。また、BIM建築設計・施工支援システム「GLOOBE Architect」のデモ展示も行った。こちらは日本の設計手法や建築基準法に対応した国産のBIMシステムで、JW-CADとの親和性が高く、特別な設定なしで日本国内における設計に最適化されている。

非住宅木造の実現に不可欠な建築金物

(株)タツミは、一種類で全梁成に対応できる梁受金物「TN-X (クロス)」や、断面の大きな柱や梁へ貫通穴加工無しで金物の取り付けができる「TN-LSB」などの新製品を展示。ほかにも、木材と鋼材を適材適所に使用し、木造の設計・施工面の汎用性をそのままに鋼材の強度・靱性を融合させたハイブリット工法「TN-WOLSH」シリーズの実物を展示した。

(株)タナカは、450mm (455・500mm) 幅で相当壁倍率4倍以上の耐力を確保した木造建築用の耐力壁「新・つくば耐力壁」の〈K型〉とより高耐力な〈X型〉を実大展示したほか、ナットレス金物工法「SSマルチ」や水平構面の床倍率を確保できる鋼製ブレース「高耐力オメガメ



エヌ・シー・エヌはSE構法の構造サンプルを展示



JWOOD工法によるウッド・ワンの展示ブース



キクカワエンタープライズの製材プラント



会期中に住宅一棟を建てるライブ施工イベント

タルブレース」、勾配屋根の屋根倍率を確保できる木造用の鋼製ブレース「勾配用オメガメタルブレース」などの実物展示も行った。

BXカネシン(株)は、同社が提唱する「MP (Multi Purpose) 木造建築」のオリジナル金物で展示ブースを構成。非住宅木造向けの接合金物として、450mm幅の狭小耐力壁「ベースセッター」やCLTパネルや登り梁にも対応できる「プレセッターSU 梁受金物」などのパネル展示を行った。

(株)エヌ・シー・エヌは、木質ラーメン構法である「SE 構法」による構造サンプルと、今年4月にバージョンアップした「SE 金物」の実物展示を行ったほか、建築環境設計サービス(省エネ計算・評価書申請サポート等)やBIM事業など支援事業の紹介を行った。

新建材や新工法、その製造設備にも注目

木質建材メーカーの(株)ウッドワンは、構造用LVL「JWOOD」を専用金物で緊結した非住宅向けの木質ラーメン構造システム「JWOOD工法」によって展示ブースを構成。木造でありながら大空間を確保し、スケルトン・インフィルを実現できる「STRONG ONE 工法」の実大展示を行い鉄骨造から木造への置換を提案した。

製材・工作機械メーカーのキクカワエンタープライズ(株)は、AIによる板材表面の無人検査装置を組み込んだ製材プラントを実機展示したほか、中断面・大断面・CLT部材生産に不可欠なフィンガージョインターや集成材加工用マシニングセンタのパネル展示を行った。